

第5回 恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会
教育活動・学校事務部会 (会議録)

会議の名称	第5回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会教育活動・学校事務部会
開催日時	令和5年11月22日 午後7時から
開催場所	串原コミュニティセンター サンホール
報告・協議	・課題19「交流事業に関する事」について(報告) ・議題16「教育課程等、教育活動に関する事」 議題17「学校行事に関する事」 ～グループ討論～ ・今後の教育活動・学校事務部会の検討事項について ・次回の教育活動・学校事務部会について
公開非公開の別	公開
出席者	委員 平林 道博 夏目 裕行 丸山 福美 横光 哲 荻山 勝 片桐 宣伸 篠原 徹 市岡 早苗 後藤 加代子 加藤 淳 荻山 俊一 梶屋 明広 三浦 祐揮 松村 亜希子 榎本 草平 田中 貢治 藤野 貴子 鰐部 靖子 教育委員会 青木 茂 各務 恵美 小木曾健太 岩島 慶尚 市川 太一
会議の内容	会議録のとおり

傍聴者の数 1名

部会長 皆さん、こんばんは。第5回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会教育活動・学校事務部会をただいまより始めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

司会は、副部会長の上矢作中校長が務める予定でいたのですが、まだ出張中でありまして、今、急遽、こちらに向かっているところですので、本人到着するまで私が代わりに司会を務めさせていただきます。

お手元のレジュメに沿って進めさせていただきます。皆様方におかれましては、一日のお仕事のお疲れの中、大変御多用の中、この第5回を数えませう準備委員会に足を運んでいただきまして誠にありがとうございます。

今日は、こんな立派な施設をお借りして会議ができるので、私、初めて来ますけど、すごく立派な所で驚いておりますが、やっぱり山道はちょっと慣れないということもありまして、到着が多少遅れまして申し訳ございませんでした。

今日の議題でございますけど、前回、交流事業に関しまして、主に現在の小4、小5、小6の子どもたちの交流事業に対するアイデアを皆様方からたくさん出していただきまして、それを中学校長会、小学校長会と併せて検討しました。これは恵南の校長会と呼んでいますけど、岩村、山岡、上矢作、それから明智、串原の小・中学校9名の校長で検討しましたので、その検討結果を校長会の代表から報告させていただきます。それについて、またご意見を頂戴したいと思っております。(2)としましては、教育課程についてです。主に教育課程は、どこでも定まっておりますので、主に総合的な学習の時間における教育課程、それから学校行事、5つの地区をつなぐ、子どもたちをつなぐ学校行事として、どんなものが適当かということについてご意見を頂戴したいと思います。

前回、交流事業につきましてはご意見を頂戴した所ですけども、校長会では、どの校長も、地域の皆様方の熱意といいますか、子どもたちができるだけスムーズに新しい学校生活に入れるようにという意を尽くしてくださった所は非常に感じさせていただいております。地元の皆様のアイデアをたくさん頂戴しましたので、今日も大変また負担をかける訳でございますけども、ご意見を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

それでは、早速レジュメに沿って検討内容に入りたいと思います。お手元の2番、報告・協議。これについては事務局の方から、よろしくお願ひします。

事務局 失礼します。事務局から。今、部会長から話がありましたが、校長会に検討していただくまでの資料を、皆様方、前回、合意していただいた事を基にして作成したものについて、簡単にではありますが説明させていただきます。よろしくお願ひいたします。

まず、レジュメ2ページ目になります。前回、グループで話し合っていた内容をこのようにまとめていただきましたので、それを基にさらにまとめさせていただきます。3ページ、4ページ、5ページにつきましては、同様に、Bグループ、Cグル

ープ、Dグループでまとめていただいた資料と、その後に発表していただいた内容を基にしまして作成させていただいた皆様方のご意見になります。交流内容、対象者、また目的、狙い、効果という事で詳しく書いていただきましたので、そちらをまとめさせていただきます。

それぞれのグループでご検討いただき、意見を出していただいたものを、交流の活動ごとにまとめたものが6ページ目になります。それぞれのグループで、どのグループが書いていたかという事で、6ページ一番最後の右側にある数がそれぞれのグループで書かれていた数になります。ここにありますスポーツ交流等については全てのグループが書いていたという事で見ていただくとよいかと思います。

また、次のページになりますが、今回、一番大事にさせていただきたかった目的、狙い、効果という所で、それぞれのグループのものをまとめさせていただいて、この共通する部分についてまとめさせていただいたものが、こちらの3点になります。こちらを基にしまして校長会の方で話し合い、意見交流等を行っていただいております。こちらについては、校長会の方からよろしく願いいたします。

部会長 じゃあ、校長会お願いします。

校長会代表

よろしく申し上げます。1枚プレゼンを進めてください。

今回、ここで話し合った事を、先ほど部会長が話をされましたが、事前に恵南の9校長でどういうふうを実現していくのがよいかと話し合わせていただきました。今日の教育部会には、恵南の9校長のうち5人の校長が参加をしております。まず、前回教育部会で話し合われた時の皆さんの熱い思いを校長先生方に十分に伝えさせていただきながら、何とかこれから統合していく子どもたちや保護者の皆さんの不安を解決していくと、そういう活動になるよという事で話をさせていただきました。

とはいえ、今日の議題にもあるのですが、学校は学習指導要領というルールに基づいて、限られた時間の中で行っておりますので、何でもできるということではありません。さらに言うと、5校が1つになるということで、5校が全て集まった形で行う活動は、事前の準備や調整が多いものはなかなか実施が難しいというところが前提です。では、どういう形が最もよいかということをお話し合わせていただきました。1枚進めてください。

まず、小学校の方ですが、子ども同士が楽しめるレクリエーション。これは、互いを知るために効果的であるとか、5校の子どもたちが集まって、違う学校同士でグループを組んで一緒にレクリエーションを楽しむ、1つの場所に集まって行えるレクリエーションがいいのではないかという話になりました。

それから、2つ目は、それぞれの学校がふるさと学習を非常に大切にしておりますので、このふるさと学習の成果の発表会を行って、お互いを知るという機会を設けてはどうかという話もしました。

さらに、合唱ですけども、それぞれの学校だと人数が少ないので、一緒に合唱

する人数に限られるのですが、5校が集まって1つの曲を歌うということで、たくさんの方が集まる、たくさんの方で協力して何かをつくるというよさを味わうという意味で、同じ曲を歌う合唱交流があったらいいのではないかという事が話し合われました。

続いて、中学校では何がいいのかという事を話し合いました。小学校ではレクリエーションと申しましたが、同様に中学生でもスポーツを5校の生徒たちが一斉に集まって、異学校でグループを組んで、同じスポーツをやる。これが非常に効果的ではないかという話になりました。

それから、中学校に入ると、合唱、どこの学校も力を入れて取り組むのですが、中学校もやっぱり同じ曲をみんなで歌うという活動を行うことで、一体感を味わえる。みんなでやると楽しい、みんなでやるとすごいということを味わうために歌声をつくりたいというようなご意見をいただきました。

さらに、現在もウェブで生徒会交流を行っていますが、今のウェブの交流は、それぞれの中学校がこんな事をしていますという交流なんですけど。今後は、新しく集まってきた時にどんな生徒会にするのか、生徒会のルールはどうするのか、組織はどうするのかという事を具体的に話し合っていくことで、これまで以上に生徒会が交流するということはとても大切なことだということで、改めて交流会は継続して行いたいという話し合いを進めました。

その他という所で書かせていただいたのは、宿泊研修であったりとか、修学旅行の話がよく出てくるのですけれども、現実的に言うと、準備面、さらに言うと、一番大きいのは安全面です。自分の学校の生徒達を連れていく時でも、大きなリスクを背負って、職員、管理職は同行する訳です。5校集まってくることに。知らない子が目の前に居るということは、やはり安全面の事から考えると、これは非常に難しいと考えています。学校を離れて知らない場所へ行く中で、さらに知らない子たちと一緒に行くのは、なかなか難しいということをご指摘いただきました。

それから、地域の行事や農業体験。今、学校単位で行っている事については、これからは、互いの地域で行っている活動をそれぞれ広げながら。例えば、岩村の子たちが上矢作のお祭りへ行ってボランティアに参加する。明智の子が、山岡へ行って活動に参加するというふうに、全部が集まってというのは難しいのだけれども、距離の近い隣同士であれば積極的に交流ができるんじゃないかという意見が出ました。

それから、職業体験・職場体験や、園児との触れ合いは、現在それぞれの学校で行っていますので、これは新しい学校になってからも、実際に、職場内、それから、こども園での活動ということで継続して続けていけることだということを確認させていただきました。

こういった活動を、現在の小学校4年生、5年生、6年生の子たちをまず対象に実施をしていきたい。6年度、7年度と2年間実際に活動を行って、その時点で改めて成果を見極めて、その後どうしていくか。そのまま小学校での交流をずっと継続していくか、現在の4年生、5年生、6年生の活動で一旦終了し、

その後は、統合というよりは、普通に1つの学校へみんなが行く形になるので、特に小学校での交流を行わないか、その時点で見極めていこうという話になりました。

それから、小学校も中学校も一斉に全員が集まるという活動は、年に1回または2回という意見が非常に多かったです。早い時期にレクリエーションやスポーツを行う。そして、学習成果がある程度できた秋ぐらいに集まって、そこで、互いのふるさと学習の交流や合唱をしてというような活動がよいのではないかという意見が多かったです。

ただ、なかなか2回というのは、現在の教育課程の中では、かなり工夫をしないと難しいという意見もありましたので望ましいという所と、実施できるという所は今後、検討していく必要があると考えます。

具体的にレクリエーションや、スポーツの内容についてはたくさんご意見いただきましたので、その中から学校で決定させていただいて、実施していきたいと思っています。

以上です。

部会長 はい、ありがとうございます。ご意見やご質問を受ける前に、これが今後どうなっていくのかという見通しについて、先に事務局より説明してもらっているのですか。

事務局 はい、失礼します。14日に、今説明があった校長会を行っていただき児童生徒の交流について検討していただきました。22日、本日になります。検討部会の報告を受けてここにありますが、恵南地区には主幹教諭という、それぞれの学校に行っている教諭がいますので、その方を中心に令和6年度の実施計画というのを作成していただく予定になっております。また、実施計画を小・中校長でまた検討し、またこちらの部会で報告をさせていただきます。その後、実施計画を確定し、来年度に向けて実施を進めていくという流れでいきたいと考えております。

以上です。

部会長 はい、ありがとうございます。では、ご質問やご意見賜りたいと思いますので、ご意見のある方、挙手にてお願いします。

はい、どうぞ。

委員 誰もないようなので。

部会長 はい、お願いします。

委員 校長会の方で検討した報告をいただいたのですが、じゃあ、交流活動に対する責任といますかね、それは校長会が負うという事でよろしいですか。例えば、私たちいろいろ意見を言ったのですが、最終的にそれはできないから、校長会がこういうふうに決定したというふうでよろしいでしょうか。交流事業に対する責任は一体誰が持つかという事ですけれど。私たちいろいろ意見を言ったのですが、最終的に年1回で、6、7年度の事も、来年を見てからやるというふうに報告があったんですよね。

部会長 はい。

委員 ですから、私たちは最終的に校長会がそういうふう to 決定したという報告を受けたという認識でよろしいでしょうか。

部会長 そうですね、主催が校長会になるかどうかというのは、またちょっと話が違うと思いますけど。これで全部切ってしまうとか、そういうことではなくて、校長会として、現場を預かる立場の人間としては、こういう意見ですよということです。これで全て決定というつもりではありません。

委員 ちょっと嫌みな言い方して申し訳なかったですけど。私は、もう少し、やっぱり5つの学校の子どもたちが1つの学校をつくるというのはすごく困難な事で、難しい事だというふう to 思うわけです。私、瑞浪でそうやって関わりましたけど、結構素地があつて、例えば、修学旅行なんかも、小学校のレベルで日吉とか明世とか釜戸は一緒に行っていたりしました。それから、部活なんかでも、中学校の野球部は、日吉中とか瑞陵中はもう一緒にやっていました。それから、また塾で友達関係がすごくできていました。

そういう中でやったのですけれども、私はうまくいったというふう to すごく自負していたのです。今、例えば、南中学校がまた単学級になったので、統合のことをやるかやらないか話し合っているのですが、そのときの交流活動なんか、保護者は結構冷めた目で見ている、自分の学校で交流活動をやるときは、すごく子どもたちが大きな顔して威張っているのに、また次の学校に行く to 小さくなっていてって、何か本当の意味で交流が進まなかったというような話をしてみえるのです。ですから、今現在5つの学校が存在しているのですが、とりわけ、私は申原に在住していますけど、小さな学校でほんとに学年2人とか3人の子どもたちが、年に1回の交流をやつて、ずっと中学校入つていけるかという to 。私も高校行つたとき、ほんとに肩身が狭いという to か、小さな顔をしていました。今は、大きな顔をしていますけど。それが現実の事と言われればそうですけど、小さな顔をしていることがあつたのです。

例えば、恵那市なんか一番授業日数が多いじゃないですか、東濃の中で、夏休みが短くて、他市は9月1日からやっているような学校もあるのに、恵那市だけ8月26日ですかね。1週間も余分に授業をやっているわけですから、そういう時間を修学旅行については、いろいろ計画まではできないけれど、時間を捻り出すことはできると思うし。

これ、5校を原則としてやってみえますかね。誰に話したらええんか。

部会長 はい、5校です。

委員 5校。

部会長 そうです。

委員 5校がみんな集まる。

部会長 みんな集まります。

委員 例えば、2校とか3校とかが便宜的に集まるとか、そういうことはできないのですか。

部会長 ああ、そこは考えてなかったです。はい。この話し合いは5校前提でした。

委員 5校が一堂に会すると、かなり人数的にも多いよね。

部会長 そうですね。

委員 そういう中で、串原の子なんか、2人や3人の子がいて、ぱっとなじめるだろうかというような心配はあるので、そんな意見を言わせてもらいました。

部会長 何か補足があれば。

校長会代表

今年、串原中学校の子が、恵那西中学校でしたっけ。

部会長 今年は、はい、西中学校と交流をしました。

校長会代表

そうですね。西中の子たちと交流をしたという話を、校長会の中で聞きまして、すごくよかったと。西中の子たちが串原中へ来て、一緒に活動してという事だったのでですけど。もう帰り際には、西中の子たちもなかなか別れられなくて、串原の子たちも離さなくて、ほんとに惜しみながら別れていったという話を聞いて。そういう、全部がいっぺんに集まろうと思うと、場所と時間とバスも動かさなきゃいけないということで物理的に難しいのですけど。そういった、例えば、串原の子とか、上矢作の子とか、隣の学校と交流するというような事については、この交流活動という事では考えてないというか、話し合っただけですけど、そういう活動があるといいねということは、校長会の中でも話がありました。これは、また独自に進めていける事があるのではないかと。今年も職業体験の中で一緒に活動をしていますけど。それも隣同士でとかであったら、一緒にできることがあるのではないかなと思いました。たまたま今年、上矢作中学校で林業の体験があったのですけど、本当は何校かそこに集まればよかったのですけど、都合がつかなくて複数校ではできなかったのです。実際には複数校でやろうというアイデアが出ましたので、そういった事で、幾つかの学校が、時期をずらしたり、活動を変えたりしながらという事は、これからやっていけるのではないかなと思います。

部会長 上矢作中は、日常的に交流してらっしゃるのですか。

副部会長 はい、すみません。先に、遅れて申し訳ありませんでした。上矢作中は、串原さんとは季節というか、1年中通しではないですけども、結構な長いスパンで、1週間に1回、月曜日と金曜日というようなお付き合いというか、朝の会とか帰りの会という形で結構しゃべる場を取ったりしています。生徒は、顔を見て「ああ、あの子」と言って手を振る間柄の子もいる関係ができていますので、数校のお付き合いは、今後いろいろできるんじゃないかなというふうには思っています。

部会長 そうすると、5校が一斉に一堂に会すのを回数的に増やしていくのは、これはかなり難しいですけども、個別校同士の交流を取り入れていくという方法で検討していくという事でよろしいでしょうか。

委員 いや、まあ学校の現実もあるのだろうけど、そういうのがもし可能ならできるところでやってほしいと思います。あと、7ページが結論だと思うのですけど、7ページにある校長会での検討は、結局対面での交流は年2回しかできないということですね。年2回。

校長会代表

それが現実的だという話し合いをしました。1学期にまず1回、レクリエーションやスポーツで集まる機会を持って、秋に学習発表会、学習のお互いの交流会というような形がよいのではという話をしました。

委員 今のような話が具体的にその下に、令和6年度実施計画案を作成とありますが、その、令和6年度実施計画案の素案はどういうものなのか。今、具体的に話が出たのですが、どういことを年に2回考えてみえるのか知りたいところですよ。

部会長 どうやった？具体策については。

校長会代表

具体的な中身については、これから主幹教諭を中心に話し合いをして、進めていくという事だったんですけど。まず、交流活動はやるという事です。さらに、今後の2年間で、学年が2つずつありますので、今でいうと、1つの学年で4回体験、一緒になるケースが生まれるということですね。来年、1年生で2回、2年生で2回で統合。小学校6年生で2回、中学校1年生で2回経験して統合する。小学校4年生、5年生とやって、入学して一緒になります。だから交流活動は、4回ぐらいは全部が集まるケースになりますね。中身については、これからどういうレクリエーションですか、どういうスポーツにするのかということについて、具体的にはいろいろご意見をいただいていますので、その中からできるものを検討していくのでよいのかなというふうに思います。

部会長 この実施計画案というのは、この部会にはまだ具体的な事は出せていません。

事務局 そうですね。今、こういうふうで、校長会で今回報告させていただいたので、これを基に、恵南地区の配置の主幹教諭さんを中心に計画案を作って、何月頃からとかを決めていかなければならないかと思います。各校と調整して、月だとか、それからどんな内容だとか、もう少し細かくやっていかないと、具体的には計画がまだ見せられなかったと思います。

今年度中に決め切れないと、実施ができないかと思いますので、そこの所については少しお待ちいただいて、また部会のほうで報告をさせていただくようにしていけるといいかなと考えている所です。

部会長 はい、どうぞ。

委員 今、その話についての要望なのですが。さっき生徒会同士の交流みたいな話がありましたので、是非、交流の中身を生徒が考える、生徒に考えてもらうというのも1つ大事な点じゃないかなと思うんです。ですから、主幹教諭さんは生徒を見て作られるとは思いますが、生徒自身がより魅力的な行事にしていくためにそこを考えさせる。その考えたアイデアを議題にして、生徒会同士の交流みたいな事をやるとより現実的で生徒にとっても意味のある交流会になるのではないかなと思います。お願いします。

部会長 ありがとうございます。ほかにご意見はありませんか。

はい、どうぞ。

委員 修学旅行とか宿泊研修が、準備、安全面からの実施は困難となっているのです

けど、これは現状、各小・中学校でも引率者がいてできるわけじゃないですか。一緒になって、それを少人数で見るわけじゃなくて、各学校に引率チームがいて、同じ日に同じ場所に行ったりするっていう事でも困難な場合もあるのですか。安全面とかっていう。

校長会代表

今、北中校区が、小学校で修学旅行に一緒に行くのですが。実際は、同じバスで移動して、目的地は一緒なんですけれど、活動は学校ごとで異なっているんですね。要するに、自分の学校の子どもたちを学校の職員が管理をするというそういうことであれば、全く不可能ではないですけど。それは、はたしてメリットがあるかという。逆に言うと、例えば、A校はここへ行かせたい、B校はここへ行かせたい。だけど、一緒に行くからどちらか妥協しなきゃいけないということが生まれることが、子どもたちにとってプラスなのか、一緒に行くことの方がプラスなのか、それぞれの願いをかなえるほうがプラスなのかという事です。

委員 まあ統合に向けての話なので、一緒に行くことがプラスになると。これを別々に行くのは、統合は全く関係ないんで。これは統合に向けての話し合いですよ。

校長会代表

統合に向けての話し合いなんだけど、修学旅行は、その学校が持っている修学旅行の目的を要するに度外視して、統合を最優先にするというそこは、考えを全く変えなければいけないんで。

委員 これはどちらの意見でおっしゃられている。

校長会代表

これは、どちらかというと、それぞれの学校に目的があって。

委員 統合ではなくて。

校長会代表

はい。

委員 統合の話の場に持ってきちゃ駄目ですよ。

校長会代表

だから、統合の中で、修学旅行に行くってことは、学校としてはあまり考えていないというか。

委員 学校としては難しいと。

校長会代表

そうですね、はい。やっぱり宿泊研修はそれぞれの狙いで、行いたいというところはやっぱりあるので。

委員 統合まで時間があまりないので、子どもたちのことを考えたら、統合を優先にしたほうがいいんじゃないかって、保護者側の意見ですけど。ありがとうございます。

校長会代表

はい。

部会長 よろしかったでしょうか。修学旅行については、前回のこの部会でもご意見がありましたけども。今の小学校生活のまとめとして、今の仲間です最後の思い出を作りたいという、そういう願いを持った子もいるんじゃないかということで承っておりますんで、一概にちょっと決め切れないところがありました。

委員 それは子どもの意見を吸い上げた話ですか。

部会長 いえ、前回の教育部会で。

委員 ああ、この親の会。

部会長 はい。ご意見は、会議の中で出された意見です。

委員 子どもの意見をちゃんと吸い上げたものを持ってきて、話さない。

部会長 そうですね。

委員 メインは子どもなんで。

部会長 はい。

委員 そこを大事にしないと。

部会長 そうですね。

委員 意味ないと思います。

部会長 はい。

委員 やる意味がないですね。

部会長 ほかにご意見ありませんか。

では、この検討した意見プラス、対面だけでなくウェブですとか、個別校での交流をできるだけ日常的に取り入れていくという方法で、主幹教諭に立案してもらおうと思います。また、その立案した計画については、来年度4月からの実施になりますので、本年度中にもう一度この場でお諮りして、ご意見を賜りたいというか、修正すべき所は修正していきたいと考えています。

はい。それでは、次の議題に移りますが、司会を交代いたします。お願いします。

副部会長 はい。すみません、ありがとうございました。

それでは、(2)の議題 16「教育課程等教育活動に関する事」と、議題 17「学校行事に関する事」ということで、事務局からよろしくお願いします。

事務局 お願いします。

前回お話しさせていただいた部分はかなりあるかと思えます。事前にお配りしたところもあるかと思えます。もう一度ちょっとその話をさせてください。議題の16番「教育課程等教育活動に関する事」、議題17番「学校行事に関する事」です。

新しい中学校で行う、地域を知り、地域を愛する生徒を育む教育活動・学校行事についてということでもまとめさせていただきました。大きなページの8番。小さなところでいうと16ページです。中学校統合の基本方針の中で、5つの地域に支えられながら地域を横につなげる役割も担い、子どもたちの中で、ふるさとのエリアを広げることで、恵那南地域全体で地域を存続させる意識の醸成を図るということでも地域を大事にしながら、とにかく中学校統合を進めていくということが示されています。

次の所、大きなページの9ページをご覧ください。中学校統合の基本方針の1つは何かというと魅力ある学校ですが、もう一つが、地域に支えられ共に成長する学校になります。9ページの下です。めざす恵那南地区統合中学校の姿の中で、「地域とあゆむ」という所があります。地域を知り、地域を愛する生徒をつくるために、地域の歴史や文化を学び、地域の魅力を知る生徒、地域の一員として、考え行動する生徒ということも示されています。恵那南地区の統合中学校、地域との関わりの中でどんな教育をしていくのか、どんな教育の理念、それから活動、そういったものやっけていくかという事を、皆さんの意見をぜひ今日お聞きしたいなという事で思っておるところです。

大きな10ページです。とはいうものの中学校も、各教科等の授業実数で全て地域のことのできる訳ではありません。総合的な学習の時間が各学校で中心的に地域の事について取り組んでおる所ですが、1年生で50時間、2年生で70時間、3年生で70時間です。9ページの下のところですが、1週間の時間割にしますと、木曜日、金曜日、これはモデル図ですが木曜日、金曜日の1時間ぐらいずつ。それから、月曜日の生徒会等、ここに部活動が入ったり、いろいろ会議が入ったりする事で、これもなかなか取れなかつたりするのですが、週2時間程度になります。

もちろん、この2時間程度の中には、地域との活動ばかりではなくて、職場体験の事であったり、それから、いろんなことを学習していきますので、全てという訳ではありません。それで、大きな11ページをご覧ください。

こういった教育課程、いわゆる授業は法令にのっとってやる訳なんです、総合的な学習の時間等についての内容については、学校の長たる校長が責任者となってつくるものになります。それで、校長がつくっていく訳なんです。21ページに書いてあるんですが、地域の実態を十分考慮してという言葉があります。5つの地域が一緒になる恵那南地区中学校では、ふるさと学習等、こういったものを大事にしていく事が必要になると思います。先ほどのコンセプト等もありましたので、こういった所も踏まえながら、学校の長たる校長が責任者となってつくっていく事になるかと思ひます。

22ページの総合的な学習の時間の取組状況ですが現在について調べさせていただきました。5中学校があります。岩邑中学校は、全校縦割りのコース別学習が主です。ただ、3年生で一斎塾と協力した学習などをやっているという事でした。山岡中学校も全校縦割りとしたコース別学習です。明智中学校は、明智に関わる学習や体験を行っています。串原中学校は、テーマとして、伝統文化の継承という事で、学年別であったり、全校で取り組む事があります。伝統芸能なんかでは中山太鼓に取り組んでいます。上矢作中学校は、地域理解と活性化という事で、学年別の取組もあれば、全校での取組もあります。1年生を中心に、太鼓なんかに取り組んでいるという事を聞いています。

じゃあ、具体について事前にお配りした資料の中には載せていませんでしたが、取材をしてきましたので、ここでご紹介をさせていただきます。

岩邑中学校です。学年別の選択という事で、8、9講座のコース別な学習を行

っています。地域の講師の方が来て、岩村の味・料理、岩村の染め型紙、スケート等、こういった事を取り組んでいらっしゃるそうです。年間30時間程度だという事でお伺いをしています。

山岡中学校です。同じように7講座のコース別の学習を行っていて、書道、絵手紙、弓道等を行っていらっしゃるという事です。これも年間30時間程度行っているという事です。

それから、13 ページです。明智中学校の取組です。1年生で明智を知る。2年生で明智に貢献する。3年生は明智とともに歩むという事で、それぞれの学年でテーマを絞って、明智に関する事の学習をしていくという事です。年間10時間程度という事でお伺いをしています。

串原中学校です。1年生で郷土愛・福祉。2年生、先人・職業。3年生、地域創生をテーマに学年ごとの学習を実施されているとい事とです。写真は、キャンプなんかで使う木を割って作っていますが、これは、3年生が計画・立案し、作業は全校で、人数の関係でやっているという事でした。それから、中山太鼓は全校でやっているという事です。串原中学校は総合的な学習の時間が少し多くて40時間から50時間の取組だという事で聞いております。

それから、14 ページです。上矢作中学校です。1年生で地域の伝統、2年生、職業・福祉、3年生、地域の活性化をテーマに学年ごとの学習を行っているという事です。町の方を招いて、成果発表会等も行っているとお聞きしています。14 ページの下、小さなページでいくと28 のところです。その他の活動という事で、各学校ともボランティアへの参加を積極的に行っているという事を伺っています。それから、職場体験では、地域の企業や事業所の御協力をいただきながら取り組んでいるという事をお伺いしています。ただ、ボランティアの参加については全員が参加するものではなくて、有志による授業時間外の取り組みですので、どちらかという総合学習ではなくてという事になるかと思えます。大きな15です。もう一度、めざす恵那南地区統合中学校の姿を載せました。その中の、下の所の「地域とあゆむ」ですが、ここだけ大きくしてありますのでご覧ください。地域とあゆむという事で、地域を知り、地域を愛する生徒を創り出していくのが統合中学校の役割かなと思います。そのために、地域の歴史や文化を学び、地域の魅力を知る生徒。地域の一員として考え行動する生徒の育成をしていく事が目標になっていきます。そのために、地域との連携によるふるさと学習。今、各学校でもそんなふるさと学習やっておる所です。それから、人・物と直接触れる体験学習としては、職場体験等を今、行ってる所です。それから、多様な他者と協働した探究的な学習です。これは、学校によっては、地域の皆さんに成果を発表したり、地域の中で、町の中でブースを設けてやったりするような様々な活動を行ったり、ホームページ等で発信をしたりするような事もやっておるという事で伺っています。

16 ページをご覧ください。新しい中学校になります。地域も広がります。それで地域を知り、地域を愛する生徒を育む教育活動等、学校行事のアイデアを今日の会でご検討いただけるとありがたいと思います。特に、5つの地域を学

ぶ教育活動、学校行事のアイデアということになります。今までが、5つのそれぞれの地域の小学校で学んできているので、他の地域のことが分からなかったという事があるかと思います。それから、そういった地域を同じ恵那南地区ということで1つの地域として考える子どもたちを作っていきたいと考えますので、そういった教育活動のアイデアをぜひ今日頂きたいなと思っている所です。

皆さんの机の上に、1枚、A4の用紙があるかと思います。今日、この議論していただくために、1枚の用紙と全体でまとめていただく用紙を用意させていただきました。そこに1個、例だけ書いてあります。恵那北中学校の例です。これも3校が統合した学校になるんですが、この学校でいくと、3つの地域を知るために3つの地域の学習をして、その中で伝統芸能を行っている所を見に行ったり、それから農業体験みたいなことをしたり、それからボルダリングなんかをやったりするような活動をやっている所があります。そういった所で、各地域の事を知ったり、それから、各地域に貢献できるような事があったりするかもしれません。そういったアイデアを、皆さんもお考えを持ってきていただいているかと思いますが、今日、ご意見を出し合って、それをまた発表していただき、具体化にしていきたいと考えている所です。

ここまでよろしいでしょうか。

委員
事務局
委員

はい。

はい、お願いします。

会の進め方について意見があるのですが。まず1つ目に聞きたいのは、今回、9ページにある、めざす恵那南地区統合中学校の姿という事で、一番右にある、地域を知り、地域を愛する生徒を育む教育活動・学校行事のアイデアはというふうに取り上げられたんですけどこの後、左にある「未来をつくる」とか、「人とつながる」、「夢を持ち努力する生徒」とか、人との関わりの中で育つ生徒を育む教育活動・学校行事のアイデアはというふうにやっていられるんですかね。

事務局

あっ、これについては、まず「地域とあゆむ」事について、ここで相談していただけるとありがたいなと思います。

委員
事務局
委員
事務局

左の2つは。

「未来をつくる」とか。

誰がやるんですか。2つ。

「人とつながる」については、どちらかというところ、これ、学校の、ICTだとかそういったものについては、別な所になるのかなと思いますし。それから、「未来をつくる」という事でいくと、キャリア教育だとか授業づくりの事なんか特に中心になるので、これは、どちらかというところ学校の職員で作っていくべきものかなと考えています。

委員
事務局

例えば、課題シートの中で、教育課程、教育内容というのが、ナンバー16にあるわけですね。

はい。

- 委員 ですから、じゃあ、左の2つについては、私たちは責任持たなくていいという意味ですか。
- 事務局 責任を持たなくていいという、ちょっとあれだと。
- 委員 学校が作るということですね、じゃあ。
- 事務局 学校が基本的につくって、皆さんにお示しする所が中心になるのかなと思っておるところです。
- 委員 率直な感想ですけど、私、教育部会の荷がすごく重いと思うのです。あとは総務部会で校歌をどうするかとか、環境部会で制服をどうするかとかね。極めてそういう、私たちの知恵とか意見で、自分たちの出身母体に帰っても、どちらの案がいいかとか、制服はどんなのがいいかとか、意見を聞いたりできるけど。この教育内容については、例えば、自分たちを出してくれている組織に戻って聞いてもあれですし、これ本来、今言われたみたいに教育部会でやっている教育課程とか教育内容は、教員というか、実際の学校を預かっている人たちがやらないと、どんな教育活動のアイデアがありますかって言われても。思いつきがありゃ言いますよ、私たちもね。一生懸命来とるんですけど。これって、例えば、地域を知り、地域を愛する生徒を育む教育活動・学校行事というのは、さっき話があったように、校長が教育課程を組んで、教科授業の中でどう育てるか、道徳授業の中でどう育てるか、総合的な学習の時間の中でどう育てるか、そういう目標と評価、計画があって、地域を知り、地域を愛する生徒を育てていると思うんですよ。
- ここで、アイデアで、そんないいアイデアがぽっと出てくるはずがないですよ。みんなで話し合って、こうしたら地域を知り、地域を愛する生徒が育つなんていうアイデアがぽっと出てくるわけなくて。地道にさっきの授業時間数に書いてありましたけど、あの時間を総合的にそれぞれ目標を決めて、こういう生徒像をつくっていくという事なので、私たちに勝手に意見を言わせて、これも結局、校長会預かりですよ、きっと。
- 事務局 そうしていかないと。結局、何かというと、最後、新しくできた学校の教育課程をつくるのは校長先生のお仕事になるかと思しますので、それはつくっていかなければならないと思うんですけど。
- 委員 だったら、ここに、こういうふうに地域を知り、地域を愛する生徒を育てていきたいという計画を出してもらって、こういう計画で育てたいけど、保護者や地域の皆さんはどうやって思われますかって言っていただければ、あっ、ちょっとこれ、とてもいいねとか、ちょっとこれ考えたほうがいいんじゃない？とか言えるけど。案も無い所で、学校行事のアイデア出してくださいねって。図書館の時もそうでしたし、みんなそうですよね、丸投げじゃないですか、私たちに。
- 事務局 そういうことではないと思いますが、先生、ほんとにいいご示唆ありがとうございます。実は、17 ページをご覧ください。書いてある所があって。現在まで未検討の事項があります。実は先生のお考えになられた事、すごく私も納得できる所があって。例えば、未検討の事項を校長会等に依頼して、学校現場での

計画の原案の作成をお願いして、ここにお示しして、こういうふうにやっていくということやっていかないと、これについてはかなり苦しいなと思った所です。なので、できればそんなふうで、私どもとしても、他の所については、そんなふうにしていきたいなと思いたしますが。地域の事については、私たちも地域について知らない事もあるので。例えばそういったことでアイデアをいただくと、例えばそれを教育課程の中に反映していく事でやりやすいかなと思っっているので、この地域の活動については、今回、こういった形で会を持たせていただいた所です。

なので、交流活動、それから図書館、それから学校行事。ああ、ごめんなさい。図書館と、交流事業と、地域との学習、これについては皆さんにアイデアをいただけるとありがたいなと思って、こういうふうで会をやった所です。なので、次回以降の事については、どちらかという、こんなふうでやっていきたいけどという事の報告を出しながら、皆さんのご意見を伺うというような形にしていきたいと思うのですが、いかがでしょう。

委員 それについて、ずっと言っていたのですよ。ここ教育部会ですよ。校歌を決めるとか、制服決めるとか、そういうことじゃなくて、新しい学校の教育内容ってうたっているでしょ、16番で。

事務局 はい。

委員 それを、私たち、素人と言っちゃあれだけど、今の話で、地域の実態とか生徒の実態とか何も知らないですよ。自分の地域の串原の学校の子どもの実態も知らないし。言っちゃ何ですけど、意見言ってくれて言われたってさ、私だけかもしれないけど、ちょっと余裕はないし。じゃあ、何でこれ課題シートに上げたわけですか、18番とか、20番とか、22、23とか。こんなのは最初から外せばいいんじゃないですか。

事務局 ああ、なるほど。おっしゃられることは、もっともかなというふうで思うところですが。ただ、学校備品、教材なんかに関わることでいくと、お金に関わることにもなってくる所がありますし。それから、保存文書の中には、学校のいろんな細かな、何かという、記念品みたいなものもありますので、そういったものについては、例えば、ご意見をいただくことが大事かなという所があります。これは、報告をしながらやっていく必要があるかなと思っている所です。

委員 まあ、いいですよ。そんな長い話はいいいですけど、ただ、結局、新しい学校の教育内容や教育課程について、統合準備委員会の私たちの部会は、簡単に言うと、責任を持ってないですよ。統合準備委員会の教育部会で決めたからって事務局長なんか言っていますけど、いろいろ意見を言っても、結局、最終的に校長会預かり、環境部会へ回す。私たちがここで、みんなでこれだけ忙しい時に集まって来ているんですけど、何か決めたとか、新しい学校づくりに参画できたかなって思えないですよ、全然。

はい、じゃあ、やらないのですね。じゃあ、もういっぺんだけ確認をお願いします。9ページについて、夢を持ち努力する生徒とか、人との関わりの中で育つ生徒ということについては、課題の16番の中には含めない。

事務局 そうですね。これは学校でつくっていく部分が多いかと思えますし。教育計画をお示しする中で、当然関わってくる事はあるかと思えます。ICTの事、いろんな機器だとかそういった事をお示ししながら、報告をする事はあるかと思うんですが、細かな、やっぱり授業だとかそういった所については、やはり学校現場でつくっていかざるを得ないかなと思っている所です。

委員 だから、それを言ったんですよ。

事務局 すみません。

委員 事務局に、知ってみえると思えますけど。

事務局 はい。

委員 これ、こういうことについて、私たちのような地域の代表とか保護者の代表が、なかなか口を挟みにくいというか。だから、これに、この教育部会については、なるべく地域の人とか保護者を減らして、学校中心にやってほしいって言ったら、拒否されたんですよ。地域の人を入れなあかんで、入れて教育の事を考えなあかんでとか言って。

私たち、ほんと忙しいのにみんな来ているんですけど、こんなアイデア言えって言われたって、なかなか一生懸命私も考えたいんですけど、思いつかないと言うか、そんないいアイデアがぴっと湧き上がることがあるんですかね大体。どうやって地域を知り、地域を愛する生徒を学校として育てていこうかちゅう指導目標とか指導計画を出して、それについて意見をもらうと言うなら分かるけど、何もないとこで、これを育てるにはどうしたらいいですかなんて丸投げされても私たちは困るなど。私は困ります。

事務局 はい。

委員 教育課程の事が出ていますけど、教育課程なんかでも、学校の教員は講習が義務づけられていて、きちんと講習会に出ないと、教育課程の勉強をしているはずですよ。

事務局 そうです。

委員 私たちに教育課程なんて言われたって、講習も受けていないし、意見言えないですよ。例えば、どういうことを求めてみえるんですか、学校行事のアイデアは。例えば。

事務局 総合的な学習の時間なんかでいくと、5つの地域から集まってきますよね。例えば串原の子、例えば山岡の子が串原の事を知るために、串原のどんな事を勉強するといいかというのは、やっぱり教えてもらえると大変ありがたいなと思います。それは、なかなかやっぱり私ども分からないことですし、ぜひそういったところのアイデアがあったりするとありがたいなとは思っているんですが。

委員 例えばね、12 ページとか 13 ページに総合的な学習の時間の取り組みが書いてありますけど、これって、総合的な学習の時間なんかは、探求的な学習ということが基本になっていて。それ、学習指導要領に……。

事務局 そうですね、はい。

委員 総合的な学習の時間の目標は学校が決めるという事になっているんですよ。

事務局 はい。

委員 目標も書いてなくて、この学校では、書道や絵手紙やっていますよ。岩邑は和太鼓やっています、串原は中山太鼓やっています。どれが一番いいですかって言われたってさ。何か、自分の中山太鼓って言ったら、自分の所ばかりと思われるし。何を基にこれを話し合うのですか。それぞれの学校がどういう成果や課題を上げているかとか、どういう目標でどうやっていくかが分かればいいんですけど、やっていることとか、こんなことだけ並べてあったって選べないですよ。選べないとか、学べないです。

事務局 選べないとは言っていないので、アイデアをいただきたいということでお話をしておると思うのです。

委員 分かります。じゃあ。

事務局 先生おっしゃることはすごくよく分かるんですけど。

委員 皆さんがいい知恵を出して……。

副部長 その各地域の活動とかのアイデアということで、これは、今からもう話をさせていただくということでよろしいのでしょうか。

事務局 今、皆さん、お話し合いをしていただけますか。ちょっと手が挙がっています。司会の方。

副部長 はい、どうぞ、お願いします。

委員 これから話し合うに当たって、確認なんですけれども学校の運営とかに関してはよく分からないですが、いただいた事前資料を見る限り、保護者としては、今、学校で地域と関わりながらやっている活動について、例えば、このまま続けてほしいとか、新しいこと始めるならこんな事がいいとか、そういった事アイデアを持ってくればいいのかなどと思って書いてきたんですけども、そういうことでよろしいのでしょうか。

事務局 はい。

副部長 ありがとうございます。そういう方向の話でよろしいという事でいいですか。

事務局 はい。

副部長 はい。ありがとうございます。では、今から時間を少し取らせていただいて。

事務局 そうですね、30分ぐらいまででいいですか。取りあえず、それぞれ持ってきていただいた分もあるかと思いますが、今、議論がちょっとあったので、話しにくい部分あるかと思いますが、御協力いただけないでしょうか。よろしくお願いたします。

また、同じように、司会、それから記録、発表者含めて、グループの中で決めていただけると大変ありがたいですが、よろしくお願いたします。

～グループ討議～

副部長 では、申し訳ありません。いろんなお話が出てらっしゃる所かと思いますが、お時間がまいりましたので、一度お話を終わらせていただきまして、発表に移らせていただきます。

では、よろしいでしょうか。では、前、Dからで、その次の会にAから始めま

したので、じゃあ、今日はBからということで、BCDAでよろしくお願ひします。

Bグループ発表者

失礼します。今ここで話し合われた事は、どんな事をやろうというよりも、どんなことは、今、それぞれの学校がやっていることがたくさんあるので、これを生かしていこうという話をしながら、じゃあ、それをどういうふうにも子どもたちに学ばせるかというアイデアとして何が出たかという、統合したんだけど、総合の学習は、それぞれの地域に帰って、それぞれの学校の地域の内容をより深める。それを、また統合した学校に戻ってきて、交流し合って広げるというやり方もあるねという話が出ました。

活動によっては、山岡でいう校舎ではできない活動がある。例えば、中山太鼓は、とても総合のためだけにここから運べない。でも、学ばせたい活動として、残したい活動の1つだから、じゃあ、総合の日はこちらに戻ってきてやる。けど、串原の子がここに戻ってくるのは、家にそのまま帰れるのでメリットがあります。なので、時間もそんなにもったいなくない。でも、それやと、じゃあ串原の子たちだけの活動になっちゃうので、例えば、それを前期と後期に分けて、前期は地元の活動をやり、後期は他地域のを学ぶというような、学年で分けるとか、そういう学び方もあるねっていう、そういう学び方の方法のアイデアがいっぱい出てきました。

以上です。

副部長 ありがとうございます。では、すみません、Cのほうお願いします。

Cグループ発表者

はい、よろしくお願いします。Cグループです。

ちょっとまとめにくいので、どんなものが出たのかなということをお伝えしたいと思いますが、でも、まとめて言えば、ごめんなさい、まとめにくいのですが、やっぱり南地区を知るということがポイントかなという所です。例えば、でも、何か新たな事をやったりとか、何かをするのではなくて、例えば、「えーないっぱい給食」というのがあります。こういったメニューの立案を、生徒、中学生が行い、そういうメニューを作っておいて、統合してみんなで作るような、そういった、地域の味を知るような活動に参画をしたりとか。地域がやっていること、産業を実体験するというような。これは、例えば山岡の寒天に関わる仕事だったりとか、いろんな地域にある活動を実際に行ってやってみる。これはよくやることですが、これも5地区を知るということでは大事かなと。

あとは、地域外体験というので、5校の地域のガイドというか、いろんな事を勉強して、その事をよく知って、その事を仲間に紹介したりとか、他の地域によさを知らせていくというような、そういった事。

後は、よくある内容ですけど、地域の歴史や文化を学んで。それは、それこそ各地区に分かれて地域講師の方をお願いして、その日は、例えば、コミセンに集まっていたら、子どもたちもそこに、生徒達も分かれてそういった事を学

び、その後、みんなで交流し合ったりだとか。後は、この地域のこども園とか小学校にも行ったりだとか、そういった事を総合の中に取り入れて、やっっていく事で、地域を学んでいくというような内容をやってはどうか。

大きな出口としては、高校に行ったときに、自分たちの生まれ育った地域だけではなくて、自分たちが育ったという事で、この南地区の事、僕たちの育った地域がねという事で話せたりとか。もっと長い目で見ると、例えばちょっと、今、その後の雑談の中で出てきたんですけど。職場体験を、例えば、この広い範囲の中でやってみるとかという事もやってみると、子どもたちが外に出たときに、地域のよさをふと思い出し、帰ってくるという所にもつながっていくのではないかな。そういった、長い目で見た子どもたちの、何ていうんですかね、人生の中に響く学習になるのではないかなというようなことを話しました。すみません、まとまっておりますが、そのようなことをCグループでやりました。紹介させていただきます。以上です。

副部会長 ありがとうございます。では、Dグループさん、お願いします。

Dグループ発表者

Dグループ、ちょっと今日人数が少ないので、あまり話し合いという事でもない、話だけなんです。やっぱりここで出た案としては、全く新しい事ではないんですけど、1年生はふるさと学習、2年生、3年生は総合学習という事で、1年生のふるさと学習に関しては、学校で何回か地域の方に来てもらって、各地域を知って、各地域についてのお話を聞いたりとか、まず地域の事を知っている活動をする。その効果としては、地域をよりよく知る事と、地域を愛する気持ちができる。それから、5地域全てがふるさとだと感じられるようになるという事になりました。

2年生、3年生の総合学習については、今、各学校でやっているような弓道とか、あとドローンとか、太鼓とか、染め物、歌舞伎とか、そういった地域の特色ある活動を選択制で生徒が取り組んで、長期間にわたって取り組む。で、外に出る活動の体験型というような話もありました。効果としては、他の地域のお祭りなどに参加しやすくなるんじゃないかとか、地域ににぎわいが増えることにもつながるんじゃないかという事でした。

あともう一つ、せっかく5つの地域が一緒になったので、恵南として取り組む、何か活動が、何か1つ欲しいという意見がありまして。何か新しい活動ができればいいんですけど、出た案としては、合唱です。市内で、全校で合唱に取り組んで、後は、市内全校、南だけじゃなくて、恵那市内全ての学校合唱コンクールみたいなのを企画して短期的な目標として合唱に取り組んで行けたらいいんじゃないかという話が出ました。効果としては、5年から10年後に、南の中学校といたらという、一体感もでる効果があるのではないかという事でした。以上です。

副部会長 ありがとうございます。では、Aグループさん、お願いします。

Aグループ発表者

はい。Aグループです。こちらのグループ、移住者の方もみえて、何でそんなに地域にこだわるんだという意見がまず出ました。まあ確かにというふうにして、今度新しい学校になったときは、「うちの南中学には日本一の細寒天があるよとかってというような事が言えるようになっていくといいよね。」なんていう話から、ちょっとそこから難しかったですが。すみません。

まず、今もやっていますスケートに関して、そいつを今後も続けてってもらってやればどうかという事と。あと、太鼓を各町で多分ずっとあるので、これは祭りを見たりとか、太鼓を体験させてもらってやっていく。もちろん、これは、保存会の方にも協力をしてもらっていくということも言うておりました。

あと、これは地域の愛着や、ふるさとの意識をとということそのままで、効果はいいかなと思っております。

あと、最後にちょっとまとまらなかったですけど、何か川から3つの水系があるということで、それを何か、学習になる何かいい方法はないかなということで、ちょっとそこでストップしてしまったんですが、そのような話が出ました。以上です。

副部会長 はい、ありがとうございました。

内容についての新しい部分とか、今、各学校でやっている活動の所をどうしていくかということであったり、1年の中でどういうふうに、どういうふうな形で学んでいくかという案をいただいたり、いろんなアイデアをいただきました。ありがとうございます。青木先生、これを。

事務局 また、持ち帰らせてください。

副部会長 よろしいですかね。はい。

事務局 持ち帰り、また、プレゼンの所について説明させていただきたいです。3番の所に行っていていいですか。3番の所。ごめんなさい。

副部会長 はい、じゃあ、すみません。お願いします。

事務局 大きな16ページの所になります。今後のという事で、ちょっと予定の所も含まれてくるかと思うんですが、今、16、教育活動、特に地域と関わることで16の教育課程、教育内容。それから、17の「学校行事に関する事」。それから、交流事業、今回、校長会から発表していただいた。それから、21「学校図書館に関する事」で、今いただいた事を、検討事項の具体化、要するに計画づくりをしていかなあかんんですが、これに少し時間がかかると思います。それから、図書館については、配置、設計、図書館内部について、皆さんのご意見をいただけるといいかなと思っておる所です。

それから、それ以外の33ページの所、現在までの未検討の事項ですが。18番「生徒会に関する事」。20「学校備品、教材備品の整備に関する事」。それから22番は「保存文書の整備に関する事」。23「予算事務に関する事」ですが、先ほどおっしゃっていただいたんですが、学校現場でやっていかざるを得ない事がかなり中心かなというふうに思います。なので、これについては、何かというと、学校現場で計画の原案作成のお願いをしていきたいなと思っておるところです。

それが、ひょっとすると、もう少し時間、年度をまたいでという事も出てくるかもしれません。かなり細かな事もありますし、その役職の方々をお願いしなければならぬ事もあるかと思しますので、次回の部会については、こういった未検討の事項の報告と、それから、検討した事項についての具体計画。どこまで計画できるか分かりません。今日の、例えば総合的な学習の時間の件になりますと、今、皆さんからアイデアをいただいたんですけど、実際にやるのは8年度になって、中学生からになるので、今いただいた意見も踏まえながら、学校で細かな計画をつくっていくこととなります。なので、お示しするのはかなり遅れてしまうかと思うんですが、そういうことも踏まえて、次回の部会については少しお時間をいただいて、報告、それから図書館について進めることがあるかもしれませんが、年をまたいで2月ぐらいにお願いできるとありがたいなというふうで思っている所です。

以上です。

副部会長 はい、ありがとうございます。今の話につきまして、ご意見や何かご質問等ございましたら。よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございました。それでは、次回の所はまた……。

事務局 まだ計画が学校から上がってこないと、報告できませんので。皆さんにお時間をいただいて、年度をまたいでということをお願いしたいと思います。

副部会長 はい、ありがとうございます。それでは、一応、今日の議題につきましては、終わりまでお話しさせていただきましたが、何か全体で最後にご意見等ございましたらいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、お時間いただいてありがとうございます。それでは、第5回の教育活動・学校事務部会を終わらせていただきます。ありがとうございました。